

1 単元名 20才のわたしへ

2 単元について

単元 目標	○取材したことや考えたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して書く。 ○話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。
----------	--

自分を見つめ、4年生なりに自分の生き方を考えて書く学習である。成長してきた自分をよく知っている人から話を聞き、成長してきた自分と今の自分を知り、これからの自分に思いを馳せて、文章にする。

単元「人の生き方を考えよう」『あたまにつまった石ころが』(キャロル=オーティス=ハースト作)(三省堂)で偉人や有名人ではない一人の人の伝記を読み、人の生き方について考えた。その時に出了た子どもからの問い「自分の/みんなの頭につまっているものは何だろう」から学習を展開した。

子どもたち一人ひとりが計画を立て、成長してきた自分について身近な人にインタビューする。自分が何者かを問い始めた子どもたちにとって、改めて自分史を知り、言葉にしていく学習は意義がある。個人情報に配慮しつつ、エピソードを学級で共有し、「てつがく」で生き方についての他の人の意見を聞く。そのように自分について考える時間を保障した上で、今思い描く将来像や自分が大切にしたい思いなど20才の自分に伝えたい事柄を決め、それらのことが伝わるように、構想を練らせたい。

推敲に関しては、最後まで書き終えたものを削ったり直したりすることは子どもの実態にそぐわないことから、構想メモの推敲と、下書き後の題名の推敲に絞って計画した。分かりやすい文章、伝わる文章とは何かを随時話し合い、構想メモの推敲では、書こうとすることがよく伝わるか、伝えたいことに合ったエピソードかなどを、下書き後の推敲では、書こうとすることの中心に合った題名になっているかなどを、観点として定める。それに沿って、他の人の文章を、敬意をもって読み、よりよくするための感想を伝え、それらのことを活かして自分の文章を推敲することを目指す。

3 学習指導計画(全13時間(国語10時間+てつがく3時間)/国語の5時間目)

- (1) 課題設定 自分の生き方を考えて書こうという目標をもち、取材の計画を立てる。(1時間)
 <家庭学習>取材 身近な人にインタビューをする。(冬休み~1月)
 <てつがく>自分の生き方に関する問いを立てて、話し合う。(「てつがく」3時間)
- (2) 推敲① 20才の私に伝えたい事柄を考える。推敲の観点を出し合い、それに沿って意見を述べ合い、メモをよりよくする。(本時/4時間)
- (3) 記述 下書きする。(2時間)
- (4) 推敲② 主に題名について、観点に沿って意見を述べ合い、よりよくする。(1時間)
- (5) 清書 本書きする。(1時間)
- (6) 交流 文集にまとめ、感想を伝え合う。(1時間)

4 本時の学習について

- (1) 本時のねらい メモを読み合い、テーマの明確さや具体例のよさなどについて意見を述べ合う。
- (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時をふりかえり、学習課題を確認する。 2 グループでメモについて意見を述べ合う。 3 自分の書いたメモを推敲する。 4 学習をふり返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">メモをよりよくするために意見を話し合おう。</div> ○よりよく伝わる文章の観点を基にして、助言をすることを確認する。